

文芸年ぶらり

短歌

【岩瀬短歌会】

冬の田の掘りおこしたる土塊に蜘蛛の巣の網かすかに揺れる 兒玉廣子

短歌の師は傘寿を迎へし晴れやかに花束抱く少女のように 浜野和操

独り居の元日なればお節食べただに香炉の灰を均しぬ 広澤日出子

読み聞かせにこどもを囲む笑顔の輪老若男女「さくらす」に集う 大関登志子

わが庭へ節分明けの春一番梅はまだかと小枝をめぐる 泉三郎

尿袋へ温みもちつつ落ちてゆく吾の命の薄あかね色 小林美瑛子

公園の岩にもたれてタブレットのぞき合いつつ幼き二人 久保悦子

節分に息子と孫らの声弾む吾の部屋にも福豆残る 雨谷友子

魔道の上りつめたる切り通し潮の香りが風に乗りくる 瀧田勇

また春が桜を咲かせ巡り来ぬ何故にいたぶる八十路過ぎの身を 鈴木英雄

友よりの葉書き届きぬ陽だまりに色の褪せたるアルバムを開く 川崎邦子

はにかんで差し出す土産の温もりをこぼさぬように双手でくるむ 仁平千代

くひちがふ会話に苛つ日のあれど二人の余生は寄りそふて生く 瀧井幸子

つれだちて父母と旅行の出来ぬまま過ぎ来し思う桜咲く頃 渡辺しな子

元旦の用意ととのえ仕舞湯に除夜の鐘の音しみじみ聞きぬ 大久保富美江

【一般投稿】友が来て初たけのこを掘って行く芹好きの友芹とりに田へ 長堀勉

十余年耕し続けた畑返す四季と歩んだ筑波山 青木勲

視界はブルー空とネモフィラ身に覆い風絡みゆくみはらしの丘 袖山千鶴子

俳句

【茂山俳句会】※兼題「春探し」「独活」テーマ句「老」ほか雑詠

独活きざむ炊事は母のやくどころ 相田ひろし

もやし独活白極まりて香りけり 岩瀬のぶ子

春深し箆笥の中の乱れをり 植竹ふみ

日曜の駅茄子苗提げて乗る 海老沢幸子

さりさりと老妻独活を弾み食ふ 海老沢静夫

老鷲の鳴けば参道あらたまる 金子弘毅

ムスカリの花魁道中艶やかに 小池信平

独活和えのみどりの小鉢うるはしく 深谷誠一

老いたるに非ず蛙の目借時 三村邦彦

山独活を酒の肴に山の宿 宮本立男

シャキシャキと父食む独活の白さかな 渡部千恵子

耳鳴りかも知れぬ残花はらはらと 君島真理子

【一般投稿】草とりの花の芽見つけ愛しなり 長堀芳江

ハイネケン黄昏割りで日傘折り 小林衛子

おもい庭桜咲いてパット光る 入山比呂子

代掻きの終わりし水田初蛙 友常小蝶

路傍には菜の花咲きし友に会う 浅賀順子

俚謡

【さくら俚謡会】雲雀空から麦秋眺めビール欲しいと鳴き叫ぶ 山もみじ

顔もふつくら気もおだやかな妻の遺影も三回忌 花野しぐれ

髪を乾かす一秒タオル使わず乾くはオレの髪 みーちゃん

潮来アヤメが我が家に根付き咲いて偲ぶは夫婦舟 田哲人

板谷波山展

令和7年6月11日(水)~8月31日(日)

開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

月曜開館日 7/21・8/11 休館日 月曜日・6/10・7/22



彩磁落葉文大花瓶



太白磁紫陽花彫篋花瓶



芸術の森 分館 大西 勲 館

廣澤美術館

茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
TEL・FAX 0296-45-6228